

「樹木とセミの分布調査 調査結果」

和歌山城 二の丸広場虎伏像前 調査結果 (資料：和歌山市立こども科学館)

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニイゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2005.8.6	98	287	4	3	0	392	21	3
2006.8.5	196	283	2	2	0	483	26	3
2007.8.12	97	405	0	0	0	502	33	2
2008.8.10	145	513	2	2	0	662	32	3
2009.8.9	38	141	0	0	0	179	24	2
2010.8.8	168	532	3	1	0	704	45	3
2011.8.13	144	513	2	0	0	659	51	3
2012.8.12	169	343	1	0	0	513	58	3
2013.8.11	115	238	2	0	0	355	35	3
中止	-	-	-	-	-	-	-	
2015.8.9	65	196	2	0	0	263	28	3
2016.8.7	241	436	5	0	0	682	33	3
2017.8.6	350	178	2	2	0	532	34	2
2018.8.4	415	387	1	2	0	805	43	2
2019.8.4	492	313	4	2	0	811	43	2
2020.8.2	260	74	2	0	0	336	27	1+
2021.8.1	465	223	1	0	0	689	20	1+
2022.7.31	182	49	3	0	0	234	20	2
2023.7.30	718	195	5	0	0	918	25	2
2024.8.4	271	61	1	6	1	340	23	2

<考察>

・2016年まではアブラゼミがクマゼミより多く生息していることやニイニイゼミやツクツクボウシも少し生息していることから、森林が近くにあり城北公園より湿度が高く自然度も城北公園より高い環境であると推測できる。

・2017年からアブラゼミよりクマゼミの生息数が多くなっている。この期間二の丸広場や和歌山城の森の樹木構成に変化はないので、周りの都市乾燥化や都市温暖化、地球温暖化により、二の丸広場の乾燥化、温暖化が進んでいると推測できる。

ご参加ありがとうございました。
 沢山の抜け殻を採集することができました。
 皆様のおかげで今年も分布調査を行うことができました。
 また、来年度もご参加をお待ちしております。